

# 令和四年 春の課題作文・読書感想文

## 〈塾長講評〉

新型コロナの感染が首都圏では下火になりつつありますが、世界に目を向けるとロシアによるウクライナ侵攻が続き、また、サル痘という別のウイルス感染に拡大が始まっています。不確実性が増す昨今の世の中ですが、一人ひとりが自分自身のやるべきことをしっかりとやり続けて欲しいと思います。

さて、今春も課題作文&読書感想文コンテストを開催しました。中学生の課題文では「発電法から考える電力自由化」というテーマで、課題文や資料を読み取った上で電力の小売り自由化や新エネルギー発電に対する自分の考えを述べてもらう形式でした。また、小学生向けの推薦図書においては、友情・思いやり・反戦・命の大切さなどをテーマにした本を紹介しました。もともと小学生については推薦図書以外の本の感想文も歓迎するスタンスで取り組んでもらっています。そして、今回もまた、数多くの力作に巡り合うことができました。

まずは小学生の部です。金賞作品は推薦図書の「夏に降る雪」の感想文でした。戦争をテーマにした演劇に参加した主人公の奮闘と成長から反戦を読者に訴える小説でしたが、「私ならどうするか」という視点が多く盛り込まれていて、作者が読者に感じて欲しいと考えているであろうことがまっすぐに届いていることが伝わる感想文でした。また、二つの銀賞作品についても「他人への思いやり」を我がこととして受け止めて今後の過ごし方の指針としようとしてい

る点が素晴らしかったです。

続けて中学生の部です。選考会議で「甲乙つけがたい」ということになって二つの作品が金賞を受賞しています。一つ目の作品では、エネルギー選択で地産地消や地域貢献もできるのではという、課題文作成者自身が想像もしていなかった提言が盛り込まれていました。また、もう一つの作品では、自宅に設置している太陽光パネルとそれによる発電量について数値を上げて述べた上で、現実的な提言がなされていました。本日(五月二十五日)の新聞朝刊に「東京都が新築物件に太陽光パネル設置義務化の方針」という記事が掲載されていたこともあって着眼点の凄さに改めて感動した次第です。

その他に、受賞は逃したものの「刑務所での刑務作業の一つに人力での発電を入れるのはどうか」という提案の入った作文も印象に残っています。読んだ瞬間は「刑務所での労役としてはふさわしくないな」と感じましたが、念のため調べてみるとフィリピンやブラジルでは刑期短縮の手段として実際に行われていました。大人になると常識に捉われがちですが、それを飛び越える発想力そのものは今後も大切にして欲しいと思っています。

作文や感想文を苦手とする人も多いと思いますが、そういう人こそ公開される優秀作品をぜひ読んで欲しいと思います。良い感想文や作文に触れて参考にしていくことも作文力を向上させる一助となります。また、皆さんの感想文や作文は講師が赤入れした上で返却されるのでそのアドバイスも活かしてください。そして、秋のコンテストで今よりも良い感想文や作文を書けるようになって欲しいと強く願っています。